

千葉大学医学部附属病院産科で羊水過多症と 診断された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年6月2日

産科・婦人科

産科・婦人科では、羊水過多症の原因特定に関する研究を行っています。羊水過多症とは妊娠中に羊水が多くなる状態であり、その原因の鑑別に関する研究のために以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2020年7月1日～2024年12月31日の間に当院で管理し、羊水過多症と診断された方

1. 研究課題名

「羊水過多の推移と原因疾患の関連性に関する後方視的観察研究」

2. 研究期間

2025年承認日～2027年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

妊娠中に羊水が多くなる「羊水過多」という状態には、さまざまな原因があります。中には胎児に病気がある場合もあり、そのような場合は出生後すぐに新生児の治療が必要になることもあります。本研究では、当院で羊水過多と診断された妊婦さんに対し妊娠中、羊水の量の変化、羊水が多くなった時期などの経過を詳しく調べることで、胎児の病気が原因かどうかを妊娠中に見分けるための手がかりを得ることを目的としています。

この研究により、妊娠中に羊水が多くなる経過がより詳しく分かるようになれば、胎児に病気があるかどうかを早く見つけられる可能性があります。早期に気づくことで、

出産に向けて適切な準備をすることができ、生まれてからの治療やサポートがよりスムーズになります。また、原因がはっきりしない場合でも、今後の説明や対応に役立つことが期待されます。

今回の研究では、羊水過多症と診断された妊婦さんの羊水量の推移や妊娠経過、生まれた赤ちゃんの予後などについてのデータを解析します。そのうえで羊水過多症の原因によって妊娠の経過に違いがあるかどうかを明らかにし、妊娠中の様子から原因を見分けることができるかを検討します。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、妊娠中の産科合併症、胎児合併症、超音波の見え方、分娩週数、生まれた子の体重、生まれた子の合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 尾本暁子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じることはありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください

い。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員 安部真希子

043（222）7171 内線 5314